

特集

サステイナブル・コミュニティ =やさしく、しなやかに続く地域をつくる

地震、台風、豪雨、熱波、停電、断水、そして新型コロナウイルスと、このところ日本列島は立て続けに大惨事に見舞われている。否、それは全世界共通の現象であるともいえるだろう。異常気象やテロリズムなど、大規模な天災と人災が人々の生活を根底から揺るがす事態が、世紀の転換とともに世界中のあちこちで日常的な光景になってしまったのである。

こうした危機に対して、強力なリーダーシップのもとで強靱な国土を作り上げて乗り切ろうという考え方もあるだろうが、そうした力技だけでは、一様ではないそれぞれのコミュニティとそこでの暮らしを守ることはできないだろう。どんなに災害に強いシステムをつくったとしても、予期せぬことが起こり、それが乗り越えられてしまう事態がいつか必ずやってくる。そんなときでも、ある程度は傷つきながらもしなやかにそれに対応

できるようなコミュニティがあるかないかで、人々の暮らしは大きく変わってくるのである。

政府が強権を発動することで市民生活を制限し、コロナウイルスの封じ込めを図っていた中国でも、流行地域では団地の自治会など住民組織が必需品の買い出しや分配を担い、自分たちの最低限度の生活をなんとか維持しようと苦闘したという。コミュニティがなければ、ウイルスとともに人間の生活も駆逐されてしまうのである。

本号の特集では、そうした問題意識から、持続可能な、人々にやさしく、しなやかな地域社会をいかにつくっていくか、食や農やエネルギー、買い物や住まいや生活保障、そして人々のつながりと生活協同組合に焦点を当てて考えてみたい。

(本誌編集長 杉本貴志)

- 1 誰もが参加できる有機農業の生産・流通・消費の仕組みをつくる
～(株)コープ有機 佐伯昌昭氏に聞く
- 2 買い物と交流の場をつくる～買い物難民に「届ける」から一歩進んだ「拠点」づくり
- 3 暮らしやすい住まいと多世代型コミュニティをつくる
～コレクティブハウスかんかん森の実践
- 4 市民と地域の力で電力をつくる～協同組合によるエネルギー供給と地産地消エネルギーの現在
- 5 明日の暮らしを一緒につくる～相次ぐ自然災害における共済の取り組みと今後
- 6 地域に根ざした生協をつくる～ホームパーティーを事例として
- 7 住民の暮らしをトータルに支える地域をつくる～社会福祉法人グリーンコープの取り組み